

当診療所における歯科医師会会員の 研修修了後の意識調査

○呂 英美¹⁾・安田 一成¹⁾・風間 敏禎¹⁾
鐘ヶ江 稔¹⁾・原 哲夫¹⁾・野村 良二¹⁾
西岡 秀喜¹⁾・酒井 秀士¹⁾・大家 まり子¹⁾
中村 美紀¹⁾・佐藤 静香²⁾・奈良 とみ子²⁾
山崎 統資³⁾・芳賀 定⁴⁾・阿部 正伸¹⁾・
小枝 義典¹⁾

¹⁾ 東京都目黒区歯科医師会, ²⁾ 八雲あいアイ館歯科診療所(目黒区), ³⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科障害者歯科学分野, ⁴⁾ 芳賀デンタルクリニック(平塚市)

緒言

目黒区歯科医師会が区の委託を受けて、八雲あいアイ館歯科診療所(以下当診療所)を開設してから5年が経過した。当診療所では、2人の指導医のもとで障害者歯科診療システムに基づいて臨床研修を実施している。

研修は原則として、10回以上(1回4時間)、指導医が障害者医療の基本的課題を講義し、見学や実技、および臨床実習を通じて実践的に研修している。この研修を修了した歯科医師会の会員は34名(認定医は11名)で、現在21名が輪番制で診療を担当している。

今回会員の研修修了後の意識変化を調査するためにアンケート調査を行った。この結果をもとに、今までの研修の見直しとともに、これからの研修のあり方を検討したところ、若干の知見を得たので報告する。

対象ならびに方法

当診療所の研修システムを修了した34名にアンケート用紙を送付し、回答のあった31名を対象とした。

設問項目は、研修に参加した動機、研修を受けた前後での日常生活、診療所での意識変化、担当医として実際に診療してみて感じたこと、これからの当診療所に望む事などを設定した。回答は複数回答とし集計した。

結果

①研修を受けた動機：障害者歯科への興味、実際の診療での必要性や歯科医師会からの誘いなどが上位であった。

②担当医になった動機：障害者歯科に関心がわいた、挑戦したくなった、指導医の指導に感動してもらったと学びたくなったが多かった。一方、担当医にならなかった理由は日時の都合がつかないが最も多かった。

③研修後の意識変化

日常生活において：障害者への関心の増加、周囲の人たちへの対応の変化、人間への観察力が鋭くなった診療において：10カウントや基本的対応を小児や老人の診療で応用するようになった、心理的対応が細かくなった、診療前の体調チェックを実施するようになったが多かった。

④担当医になってよかった点：今まで対応困難だった患者さんも診られるようになった、医療に対する考え方や診療システムの再考ができた、他の担当医とのコミュニケーションの構築が多かった。

⑤担当医になって悪かった点：特になし。

⑥あいアイ館の利用法：他の担当医との情報交換 障害者歯科の研修、指導医のアドバイスを受けるなどに利用している。

⑦あいアイ館に望む事：診療日数の増加、摂食嚥下やアドバンスコースの新設などを望む。

考察

さまざまな動機で参加したにもかかわらず、研修修了後の31名全員に日常生活、自院での診療等において意識変化がみられた。また担当医もそうでない者も意識変化については特筆すべき差はなかった。

この結果、現在実施されている研修は、経験を積んだ開業医にも何らかの意識変化をもたらす、障害者歯科だけでなく、通常の診療にも良い効果をあげているものと思われる。また、新設コース実施の希望は研修後に挑戦意欲や知識意欲が湧いたものと思われる。

結論

研修修了後の会員全員に有意義な意識変化がみられた。今後より多くの会員が気軽に参加できるような短期研修コース、摂食嚥下コース等の新設を考えていく。